

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	IRCADフランス/IHUストラスブール留学報告
別タイトル	Research fellowship in Research Institute Against Digestive Cancer (IRCAD)/Institute of Image Guided Surgery (IHU)
作成者(著者)	渡邊, 良平
公開者	東邦大学医学会
発行日	2019.06.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 66(2). p.144 145.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	世界の研究室から
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2019 028
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD56010603">https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD56010603</a>

Research fellowship in Research Institute Against  
Digestive Cancer (IRCAD)/  
Institute of Image-Guided Surgery (IHU)

IRCAD フランス/IHU ストラスブール留学報告



渡邊 良平

東邦大学医療センター大橋病院外科

2017年5月から約1年間、フランスのストラスブール大学に併設する Research Institute Against Digestive Cancer (IRCAD)/Institute of Image-Guided Surgery (IHU) へ Research fellow として留学させて頂きましたので、ご報告させていただきます。

IRCAD は、腹腔鏡手術のトレーニング施設で、フランス以外にもブラジル、台湾にあり、2020年にルワンダにも開設予定です。IRCAD 創設者の Jacques Marescaux 教授は、2001年に手術ロボット da Vinci を用いニューヨークから遠隔操作で、ストラスブールの患者の胆嚢摘出術を世界で初めて成功させたり Lindberg 手術で有名であり、IRCAD では、毎週のように各臓器別トレーニングコースが開催され、年間4000人以上の参加者が世界中から集まって来ます。自分も10種類のコースで指導医として参加し、教育システムを学ばせて頂きました。併設する IHU は、フランスの国家プロジェクトで創設された研究施設であり、ストラスブールでは、イメージガイド手術の研究が行われています。その他に、ICM (脳神経科学研究所：パリ)、ICAM (心血管代謝栄養研究所：パリ)、IMAGINE (遺伝性疾患研究所：パリ)、LIRYC (心血管疾患：ポルドー)、MÉDITERRANÉE INFECTION (感染症研究所：マルセイユ) の5施設があります。

ストラスブールは、クリスマスマーケット、白ワインで有名なアルザス州のドイツ国境沿いに位置する観光都市です。道路を白鳥が横切るのを車が待つような自然と歴史のある街です。少し街から離れるとフランス語かドイツ語のみの世界になりますが、フランスの方は親切で、テニスクラブで知り合った友人の助けもあり、言葉の壁を越え友人

も沢山できました。

IRCAD/IHU の共通言語は英語でしたが、最初は日本人が、一人でわけのわからない英語をしゃべり、何をしに来たんだという目で見られていたと思います。イタリア、ドイツ、南米、韓国、オランダ、アイルランド等から Research Fellow として留学中の医師達と机を並べて一緒に過ごしているうちに、相手の言っている事を理解し、自分の言いたいことは怪しいながらも伝えることができるようになった



お世話になりました IRCAD の president である Jacques Marescaux 教授と

たと思います。

IRCAD/IHU では、医師以外に工学系技術者が多数在籍し、週一回行われる Fellow meeting では、多職種のプロからアドバイスをその場で受けられる素晴らしい環境が整っていました。この素晴らしい環境で、研究では、ICG 蛍光物質をコーティングしたマグネットで腸管吻合を生体豚で行い、acute モデルで 2 例、サバイバルモデルで 3 例成功させることができました。また、腹腔鏡の画像精度が、エキスパートと Novice（腹腔鏡手技の経験のない人）でどのように影響するかを、腹腔鏡手技とカメラ操作に分け、fellow 仲間とチームを作り、施設内で働く多職種協力のもと、約 100 人のデータを取ることができました。その他にも逆流性食道炎に対する、新たな噴門形成手技や幽門狭窄に対する新たな幽門形成手技の確立にも参加させていただきました。この二つは、既に論文化され Co-author として入れて頂きました。計画の立案→プレゼンテーション→チーム作り→実行・結果というプロセスの中で、多様な個性を尊敬し合いながら新しいことへ挑戦する、この経験は、自分の人生においてかけがえのない宝物となりました。

最後に、留学を勧めていただきました故片田教授、IRCAD をご紹介いただきました大森病院外科金子名誉教



苦楽を共にした仲間の fellow 達（fellow の office にて）

授、留学機会を与えていただきました草地教授・斉田教授はじめ大橋病院外科医局員の皆様、同門会の皆様に心から感謝申し上げます。

DOI : 10.14994/tohoigaku.2019-028